

安齋漫筆

二

海外書冊

和書門類	一八八二〇	二〇二〇	一〇二〇	六冊架函號類
------	-------	------	------	--------

內閣文庫	和書
五三函架	五八二〇
一〇二〇	六冊架函號類

漫筆雜考

內閣文庫	
番號	和 18820
冊數	6 (2)
函號	153 308

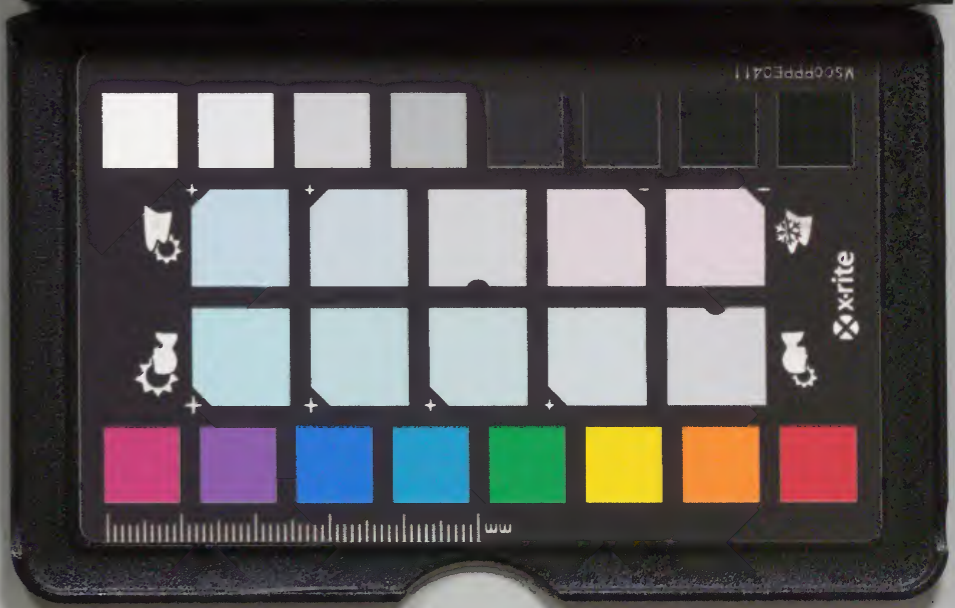


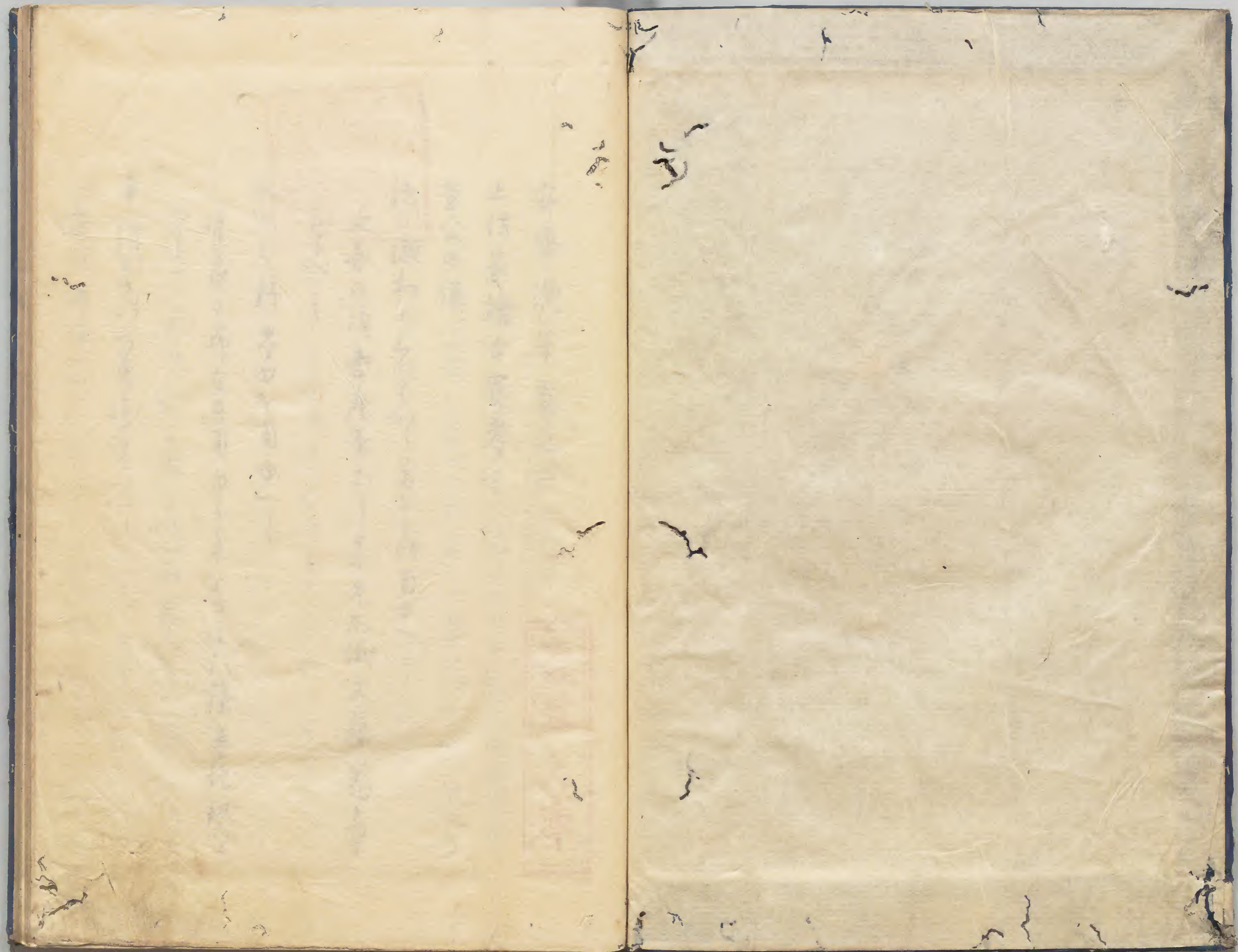
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





安齊漫筆卷之二

土佐家繪古實考

菅公の像



袖の織物と云ふは、
菅公の頃、
菅家の跡をカと用也

菅家の跡をカと用也

平信長といふは、

定りあり

浅草文庫

そのかきふり 享保の比

有徳院極上意よりて冷泉中納言乃久卿

右繪布一極之身言は 仰り出車の上住吉廣守

深願之仕右繪布と以古人の像と相認す以上

古画の風解 兩度より變改せり嗚呼

住吉慶貞と天神像と菅家の像と若別あり

天神像を贈官贈位を以て重く左思世衣未し

一八葉車ののり

八葉車といふは立板の細代より八耀と作るものなり

俗に車の輪は八枚ありは八葉といふは儼事あり

車の輪本ありよの八輻廿四本あり 離車ハ七枚あり

輻廿一本あり 老子傳三十輻共一轂とあり考れハ
漢の車と論本輻廿一本の車より多きことあり

右滋野井 亞相と蕭卿 評説

檣嘉子 子 女御入門の沙車及紫茂条の車と

えりは論本七枚あり

二條の沙城あり沙車七輪本七枚あり

海人藤若大八葉車ハ俗中大臣以下卿僧

中僧以下僧細用之ハ八葉ハ四位五位雲客

僧中有職非御所用之紋車家紋細代組

竹又神陰畫之顯職殿上人系用

顯職を各人
に内外記右

右兵

安永五酉申三月廿四日

伊勢平尾貞丈写

一 三物の繪評論

慶舟画

土佐画工板谷慶舟一送きス

えはしは京極ふし中の古のえはしを中々うらやま
いふやうなもてなれ。徳ある家の杉鳥帽子とすて
あふり折やううらやま有り。近江國の手護
佐と本の家もすし用いれはと京極折し中のし京極
とすしと京極の家け人の像の八画中の他家け人乃
像の八画すしきふみい享保のころに朝鮮へ下
りし法属風の前九年合戦の繪と畫し。京極
折のえはしとすしと人と畫しとあやううらやま

後三年合戦繪はええうらやまえはしとかくづらふ

よはすしとえはしの中やまはうらやまはあやううらやま

へい

えはし徳をの繪とあはし中折し巻切の緒のどうけとてうづかけし中い

白し黒し一寸かみ組いがあやううらやまのえと

すしとあはしとえはしとけし中いとは古代な

一 引目をも筆掛引目とあはしと大射しとあはしと

筆かけの繪はええうらやまかお射引目とあはしと

引目とあはしと

一 うよかづらええうらやまあはしとあはしと

あはしとあはしと素襖のひとあはしとあはしと

あはしとあはしと

一 是は一前より

一 引目は大進物の引目と笠くけ引目と画つて
ありてびりあり

一 袖より素袂の紐と引さちぐさの袷えは得る
笠くけ布式を左と肩ぬぐびにてさざらけ
射より中より品り進りども射よりきふと射
のさざらけ又さぬぐにてさして射より有
是を布式をさふくは神とぬぐ時のすあ
とち中ハ前よりひととすむむびよりあ
つむげこしてより後より後よりむむび
付はけ後よりええよりハくぬぐにてさ
ぬぐはれとちの

形は似たりこととさす付ハハ此をせき
すあより小袖の別へ入き内より常
後より得るあり

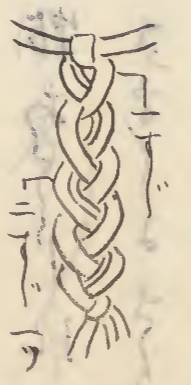
一 此よりいも白いのさくはよりさぬぐ
け幸前より志

一 ちいさ刀のより前よりさ
一 中ぶさめの繪

笠のより古代を常は思つてさあやい
京保の比やぶさめは再兵の時あや
して南部 兵福寺の室を正倉院
田樂笠と上げり此笠と用ひさせ
て中ぶさめ

沖張りありしもの美をくぐると骨よりて麦く
 とちつつけらるもの今世の中はわの繪をけむる
 筆とくくくがすし古代のやがめの絵はあやめ
 と画くくくあやめをくくく表すす窟くあ
 くらものし形右のむくくくく似くく後三年
 今御絵よえくくくあやめをくくく青く色くくく
 新くくくく黄くくくハわのうまて色のさめ
 御くくく
 一 小の緒くくく御あまう大まきくくくく
 あまべー何まの緒のくくくくくつ折ふくくく繪のくく
 ろれくくく画くくくくくあり緒をくくく

繪てよのあまう沖ニツ折よすく



ちげくくく

一 ちのくくく二すくくくくくく組てえれがくくく
 一 このくくくあのかくく今世の風を錦くくく唐織くく
 の絆くくく
 一 ちがくくくのむくくくハ白毛の糸の方よりあつ常のむく
 だくくくく神くくく出くくくくくあくくく神くくくむくく
 一 ち神くくくくくハ前の方の白毛くくくとくくく

くして切すつるは是秘りなり享保の高田やぐらゝ
切らむと又せて内へ折こことちかて用ひしきり

安永五六月十七日書

貞丈考

一 浮線綾

古今著聞集に永正五年四月廿二日信合あり
ふねのすきあはこころとてしるまのむすびやく
ろよ色くの玉油むしほりぬきてくろふく古
今の繪七帖ありし紙款繪のふれさるし一帖入る
ひやしとさあはさるしとちりてふてしこれぞ
中やの卯の花とぬいしる

震務紫束抄に表袴壮年の人浮線綾と稱して

異本
浮線綾

白浮線綾織物地は小石玉

是と稟
霞し号

其中は稟の紋

あり中年の人を墨紋織白紋菰の丸遠く居て裏
紅板引

一 小野 通風考

冠壁カシマすすカシマうらうらうらうら額のさハ顔中とくづら

いゝえむ梅松軒子さびしげみとみかまの候は雨の

いゝとひしげ人のさぬしはさよとひしけりあり

いゝとびしげ人のさぬしはさよとひしけりあり

いゝとびしげ人のさぬしはさよとひしけりあり

いゝとびしげ人のさぬしはさよとひしけりあり

中子と高きはる梅ほきく軒は此はの冠をむかひ

ありしころふきくありしころありある人傳しきし古代の
冠桶と持し人をもつたて今用せりあり
中子の後より小紐の端より按日本記天武天皇十
一年六月壬戌朔十日卯男女結髪仍著漆紗冠同十
三年閏四月壬午朔丙申詔男子有圭冠冠而著括緒
禪より圭冠蓋即漆紗冠を漆紗ハ製作を以て云圭
ハ形状を以て祿するあり圭ハ玉篇より瑞玉なりとあれハ
冠の形頂円より玉の形より象り今の立烏帽子の如
して紗より製し流ぬりて柔軟なり抑ありて其を
冠して鬢のありて絞して小紐より結びしころが鬢の納り
しころ細く高くありて今冠の中子の形のよきあり

其小紐より結びしころ形を遺して今の冠も中子の根より
結びしころ形より造るあり中子の今の冠は并して中子の
根より串沖横に刺貫する小紐の結び餘りの両方ハ端の
出る形を掩したるあり按今立烏帽子ハ圭冠と鬢のありて絞し拵し
今立烏帽子ハ圭冠と鬢のありて絞し拵し
冠の形より御と鬢あり按和名抄櫻俗云燕
櫻の柙枝のよき拵し拵ふ按和名抄櫻俗云燕
尾とあり笠の櫻燕尾は似し後代の櫻ハ燕尾ハ似
し按日本紀元明天皇和銅
元年八月丙申の制自今以後衣ノ標口ノ闊八寸以

理髮之人而冠者乱髮搔搔取元結

下一條者常以紙
檢其元結

一筋ヲ二結ニ取テ半髮ヲ卷上テ其末ヲ結
而又以紙檢其元結

次理髮之人髮搔ヲ

以手髮ノ末ヲ上ニ分テ以紙檢結之 次右方 次以引合卷

二筋ニ横ニ卷之兼書左右以紫之小元結ニ筋左右

結分 片カキ相向和 次理髮 其作法結分多髪ノ末ヲ折返ニ
テ筆カヲ逆テ持テ左右ノ髪

ノ末ヲ半髮ニ中ニ藏納シ冠者ニ右不見仍加可
見者也ニ左理髮之人法同如此左次右理之人 次取冠 式爲
帽子 今

蒙之 理髮之人而冠者 次理髮之人雜具紫打乱管中

ハ返納掃巾以之相調此時髻之掃一髮搔一置湯

半流杯起座退出次加冠之人進寄理髮之因座下

右髻掃 髮搔 不侵 漸進到冠者之前及手理於髻

先左髻次 心中祝萬々奉壽而髮掃亦如之返座後

着坐次役者撤雜具次冠者起座入体前

於此時
改本結

眉ホ衣裳以下
一之如新粧 次加冠之人花坐退出若着坐之人有

之者冠者之右方發一帖之中兩人若之又如冠相

向若坐之計間之序發改之如常發備事次冠者

出座冠者若吾坐座之程盃破多少可隨時之

一 小野通風像出而之儀大塚大帥一取合々如青蓮院

法親王の近湯殿の御借の如字々々其字田安

極の系々々千春と古画徳々々人写字上り由出之儀

大塚大帥所持の像と千春徳々の其字と和字と云々

此座の

通風の像古書二通了此座の由一通了若小サ通風

り洋あり

拾遺抄とる

一 卯つち 細流を卯枝しかふしりあり年中の悪

鬼と追つたる系而より内裏より奉りあり江戸才才二言

系而より進卯榎ヲ藏人取之結什盡御帳懸角柱副

立細本為柱榎未出五天許可用桃木又四方可

削近代丸也失れ

木のありれちやせりはるまの部 五寸斗あり卯

榎ニつとるえのさあまかしらつてふかどくし

花ひけふしけふどくらけようぞく

一 十五日の木の 小まうゆりちや入

枕巾子十六ハハりちのうゆのせくまりのうゆの本引

うくし下家のこごち女房ふとのうゆふとくはれ

まういしつねまうしちゆつひあはけ一記

まういしはてりふあこくちあてらはいこまけ

はあけあしちひいしとて

物ふりしけあし腰と下ま子ゆらむま

あひし今童のまらるる

狭衣才四巻

十五のうき人こしこむきぬおうげ

る杖ひさくつさこよふい又いれど

うわしすまのあしとてのあ

ういぬり松葉紙はありかゝの部よりぬりし紙
ありりていし又え下かこぎ

一 ちんささ小さん

湯明門

この急仕師川より左馬の傳入より上達部の

殿上人のこごうけきおふさまおさますつけてぬり

一 禁色 のていしき 二位の務人しんちめしけきいしき

君まふれししえしときたりぬあやうりのとこよま

てしう青色染ふといしりていしり

一 こやこめりていしきの部

こやこめりの 立后の さん しほ ちんこまいぬ大まやうぶ

りてまひりぬちやのあよまつてくす

すい常衣お経履つがのまき上東門院立后の糸

けいしえ履つがのぬきつがひ大麻子しその水帳乃

糸のこまいぬふし常のゆあうめさすり

又枕蓑子しすうしちていしひんちちあり

おんしつひ椰子こまいぬふしりの種や入のし

一 ちんまりり

こまいぬの解りえハあまうあうくあうてりふ

けり

はあおし松麻のぬきの上こまいし履ぬく色

いろく糸くしちてあうびむしひしちていしり

きもかきん情あり

一 ふきぬきしきりの

童女のしげしげとまふくしつさふはあだはらうひまふ
うさささささささささささささささささささささささ
あふさささささささささささささささささささささ

一 むけこのかきしきり

一 あや免の務人 茶玉

五月のせられあやちる務人ささぶのうらあひりの色は
あふぬきしきり 領巾婦人 双上飾 ささい 裙帯 かくしきり
みこさささささささささささささささささささささ
ふまふ かた茶玉とささ さささささささささささささささ
いさ 舞踏

一 仁壽殿 ぎりえ

くちおしりの部

あふさささささささささささささささささささささ
さささささささささささささささささささささ
さささささささささささささささささささささ 猿樂

一 日の装束

昼の装束さささささ

一 さささささささささささささささささささささ
けさの夜 緒 の装束ときり伺候するをさささささささ
一 さささ 殆也 さささ 殆也 さささ 殆也 さささ 殆也
さささ 殆也 さささ 殆也 さささ 殆也 さささ 殆也

一人とすい

花多條情を車ハ公方より急ぎきて甚人よあり
人給と名付あり副車 トクニヒスソクニトヨム

一青さ

青さく調り柳あり松軒子よ清少のりく或とさる

一人より

人目よりきあり

一白さ

白式紙あり

一白さ

一列侍の名湯あり

殿上人の為對面く程ありりき出前よりハあり
うしよもあしあしあしとりてくらの出のよの上のあし
ひんりあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし
ふもつあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし
こつげたあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし
さしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし
是より下階の 名いよとす
殿人の 六位ありいよとくみぬあり
丁このうらえまたりいよとくみぬあり
のいよとくみぬあり
あしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし

定こし是ハ古付の鼓を打ッ教レ定メシ延壽式の陰陽
寮式より諸の時撃教子午各九ツ丑未八寅申七卯
酉六辰戌五己亥四

一 練色のきぬ

練色ハ赤きあり

一 乙巳辰の屏風

坤元派の山河ふとのさると繪よかき屏風ハ詞詠集
の覚明の注のし押え派屏風の詩と知るよあり

一 かんまの屏風

漢書に記しと結一屏風ハ前漢書八十二
帝紀八表十志七十列傳より世ハ先班固の撰

後漢書八十帝紀八志八十列傳より百二十卷范
曄の撰あり

一 月並の屏風

年中行りしと繪より屏風あり

一 地獄變の屏風

地獄の神と繪より屏風あり

一 沃懸

枕料子ききくしきりの部陰陽師のりあり
いこく和まきりし中畧
けさせよしぬよまあり
是ハ和の氣つきりりり絶入りりり冷水

螺細劔帶セラレ

永享二年七月廿五日普廣院將軍大將拜賀沉地螺

細劔帶セラレ

一 永正三年七月廿五日准慈照院唯后大將拜賀沉地螺

細劔帶セラレ

建武元年十一月十九日等普持院將軍參議拜賀時螺

時繪螺細劔帶セラレ

長録三年慈照院准后左大臣拜賀時繪螺細劔帶セラレ

ラル

應永世三年四月廿六日勝定院將軍石清水八幡宮

臨時祭日有榎時繪劔帶セラレ

康曆二年正月廿日鹿苑院准后大將直衣始時繪野

劔帶セラレ

永享二年十一月九日普廣院將軍大將直衣始同前

康正二年正月廿五日慈照院准后大將直衣始同前

○ 文明十九年正月廿五日常德院大將直衣始同前

○ 建武元年十一月十九日等持院將軍參議拜賀緝地

ノ平絹ヲ用テ

○ 應永十四年七月十九日勝定院將軍大將拜賀二緝

地平緒ヲ用テ

○ 建武元年十一月十九日等持院將軍參議拜賀有文

巡方ノ帶ヲ用テ

○康暦元年七月廿五日鹿苑院准后大将拜賀有文巡
方之帶ヲ用ラレ
○長祿四年十二月十五日慈照院准后左大臣拜賀
有文巡方之帶ヲ用ラレ
○永徳二年之行幸ニ鹿苑院准后左大将^臣大将トシテ
纓ヲ卷キ老懸^ハ弓箭ヲ帶セラル^ハ是ハ別勅ノ旨後
ノ例タルベカラサレ由成恩寺関白^臣經嗣記セリ
○寛正四年十一月二日慈照院准后等持寺八攝之時
永経朝臣^{冷泉左門佐}平頼^ハ御劔ヲ持テ見タリ
○文和三年二月廿四日等持院將軍参内ニ衣冠淳織
物ノ指貫ヲ用ラレ

○延文二年七月廿五日宝篋院將軍参内之時衣冠ヲ
著セラル

○康暦元年四月廿八日鹿苑院准后于時右大将ニ
参内ノ時衣冠ニ下括ヲ用ラレ
○至徳二年八月廿九日鹿苑院准后春日社参詣之時
衣冠下括ヲ用ラレ

○宝徳四年三月九日慈照院准后春日社参詣ノ時衣
冠ニ下括ヲ用ラレ
○貞治六年三月廿九日宝篋院將軍
殿ノ御會ニ直衣薄色ノ固織物ノ指貫紅打ノ衣ヲ
出ス

弐詮于時大納言
三十八才
中

康曆二年正月廿日廉苑院將軍直衣初二藍直衣
紫ノ織物ノ指貫文藤ノ丸紅ノ下袴服白括紅打ノ
衣亦用之

○寬正五年十二月慈照院准后

改于時左大臣
准后三十才

新院ノ御幸直衣如常指貫花田織色文雲立涌用之

童躰例

應永元年十二月十七日勝定院

改持

元服以前。直

衣紫織物文小葵。袖綾蕨芳文相唐艸。單綾濃色
文菱。指貫紫二重織物地文龜甲白浮線蝶之丸。
括腹白

宿徳例

文明十二年正月十日准后

于時左大臣
四十八才

年始之參

内ニ直衣如常指貫白綾襪平緒ヲ用ラレ

一將軍家直衣布袴之例

○應永廿七年二月九日嵯峨宝幢寺供養勝宝院將

軍紅梅ノ直衣下襲指貫蒔繪劔紫地之平緒亦用之

○指貫文將軍家烏タスキ或小藤丸雲立涌ナリ

但年齢官位ニヨツテ被用

○水干沙ニテモ平緒ニテモ又ハ色ハ白ヲモ何色ニテ

○大納言時ニテ内ニ着用之又湯明ノ家ニハ大臣文
前途ノ後モ長緒直垂ニ着用之尤不審シ

○直垂同布直垂

練と利由色ハ何うくし今見ると大概思お色あり
むくらんしと云色ノヨシ或申ハべりこ下ノ房徳ノ
ナキ長緒ナリべし紗ノ直垂ハスグレタル家ニ着
シハベル大概水テノコトシ陽明ノ家ニハ精好ノ
直垂ヲ紅ニ染御着ノヨシナリホカヲ着シ玉フ小
刀ハ他家ニモ用ル度アリ布直垂ハ諸大夫着シ是
ヲ俗ニ大紋ト云大キナル紋付ニヨリテカ緒緒ハ
并組也前ニテムスロテ下ル下モ上モ同ニ長キ袴
ナリ素襖袴トノ替目ムナ緒草ト布組シ
長緒元服以前用之菊ト千トテ黒キ房アリ地ハ生ニ
テモ紗ニテモ白ナリ

○御引直衣トテ天子尋常ニ召之臣下ニ替レル直衣
是モ昔ハ御下サテ直衣トイヘリ近代御引直衣トス僻
事ノ由也

○褐衣 隨身ノ着スル物ナリ狩衣ノ服ヲフサキ夕
ル物ナリ

○退紅白丁 是ホハ下部ノ着物ナリ傘持皆持等著
物也退紅ハ能家ニ具之

延喜式退紅アラソノト訓江次才葉葉

○道服 地ハ狩衣ノコトニ出家着用ノ衣ノコトニ
月形ナキモノナリ大臣至極ノ燕衣ニ用是ニ立烏帽
子ヲ着用ス

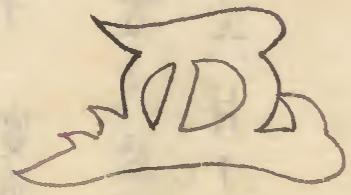
。襖袴 近衛大概着狩袴十同類名ノ之替子細
 十狩袴トテ隨身舍人牛飼ホノ着狩袴ノ白深分
 朽葉紅梅萌木二藍ホサレ也依之先規
 右西三條内大臣實隆公道達院殿 装束抄見多

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

後水尾帝

諱政仁後陽成帝
 第一子

慶長十六年四月十一日
 即位延宝八年八月九日
 崩壽八十四

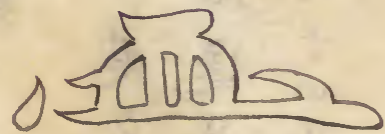


上引

伊勢平貞孝

備中守
 貞忠子

永禄五年九月十日
 日戦死于舟岡山



別様

今出川

藤原公行

右大臣
實直子

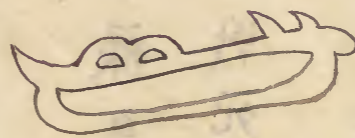
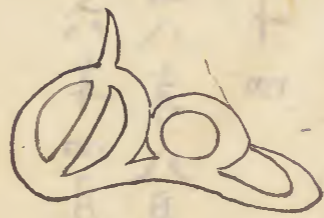
從一位左大臣應永
二十二年六月十二日薨

平直實

一帝太直實子

次郎建久三年薙染
法名蓮生承元二年
九月十四日没

別樣



別樣

建久六年
二月九日

藤原長房

參議光長子

參議正三位民部卿

在大辨仁治四年

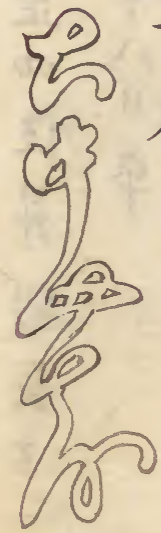
正月十六日薨

後小松院

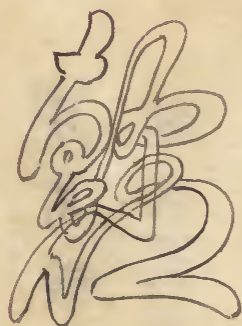
韓^諱幹仁後圓融

第一皇子

草名



草名



右押譜

源義家

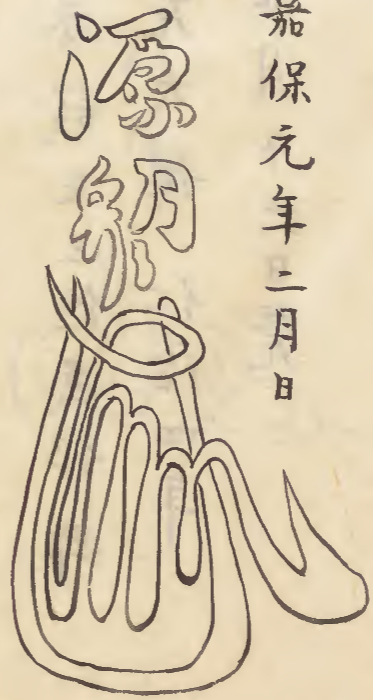
伊豫守頼義第一子

八幡太郎鎮守府將軍

正四位昇殿長治二年八月

十八日卒

嘉保元年二月日



別樣

花押藪

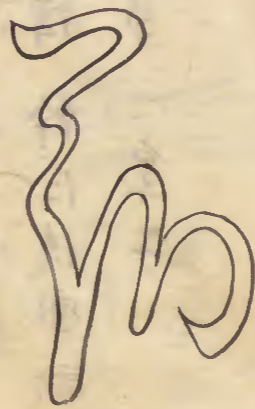
義朝

六條判官
為義子

左馬頭播磨守

贈内大臣

草名



古押

萬里小路

藤原孝房

初兼房推
大納言元房子

參議從三位左大辨

元和三年四月朔薨

年六十六

木曾

源義仲

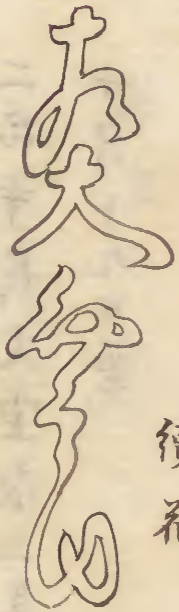
帶刀先生
義賢子

征位將軍從四位下

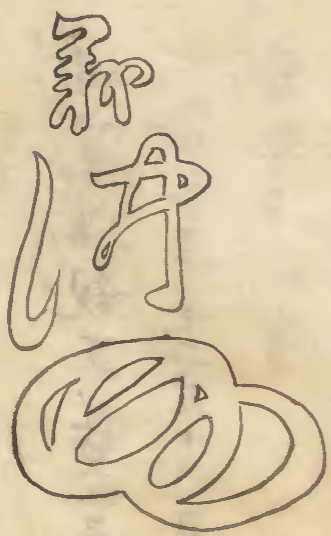
左馬頭元曆元年正

月廿日戰死

一字



續花



實相院

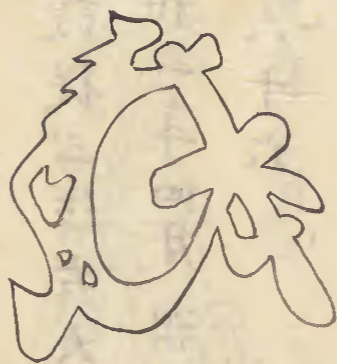
義延法親王

後西院帝
第四子

二品寺長史宝永三年

十月十九日薨

二合



續花押

聖護院

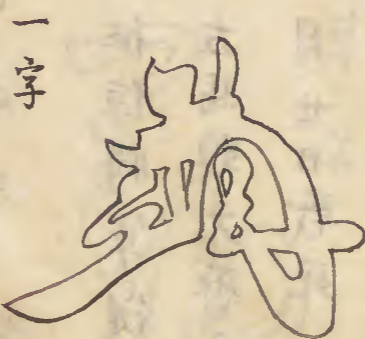
道祐法親王

後西院帝
第七子

道寛法親王ノ資二品

元禄三年十二月十八日

薨号浄心寺



一字

三條

藤原實行

太政大臣從一位

應保二年七月

廿八日薨年八十四

草名



三條

藤原公房

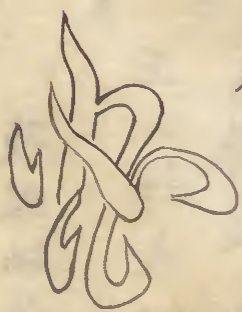
左大臣實
房子

太政大臣從一位

建長元年八月

十六日薨

草名



二合

鷹司

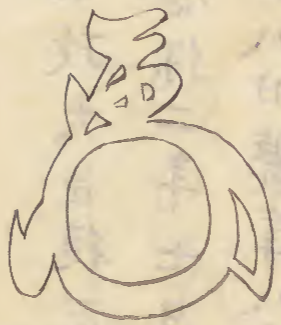
藤原房輔

左大臣
教平子

関白從一位左大臣

元禄十三年正月

十一日薨



一字

花山院

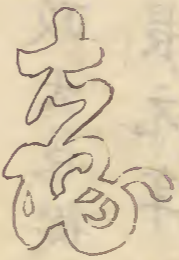
藤原忠輔

後鳳栖院相國政長子

正二位大納言右

大將天文十一年

正月二十日薨



草名

日野

藤原時光

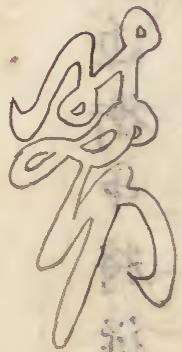
權大納言
資名子

正二位大納言

貞治六年九月

二十九日薨

草名



延文三年三月十二日

花押藪

大江匡房

信濃守成衡子

權中納言

正二位大納言太宰權

帥天永二年十一月廿日

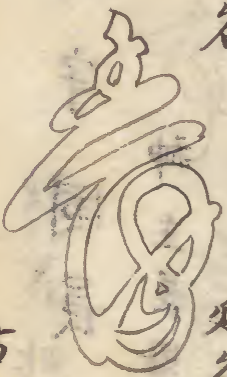
薨

江月
草名

延久二年七月三日

古押譜

草名



延久二年七月三日

古押譜

世尊寺

源行房

宮内卿 經尹子

右近衛中將從四位下

善書 延慶正和間

人

二十八年

二合

花押藪

花押藪

花山院

津守 國長

神主長盛 子

從五位下 權神主

建保四年五月廿五日

卒年五十六

始天

五二

花押藪

大草名

花押藪

東福寺

師鍊

字虎関 嗣法 東山港

照貞和二年七月廿四日

寂

草名

花押藪

花押藪

右 栖川

幸仁親王

後西院帝 弟二字

一品 兵部卿 元禄十

二年七月二十五日薨

年四十四号 本空院

二合

花押藪

花押藪

三好政長

孫三郎頼澄子
号釣閑齋

別樣

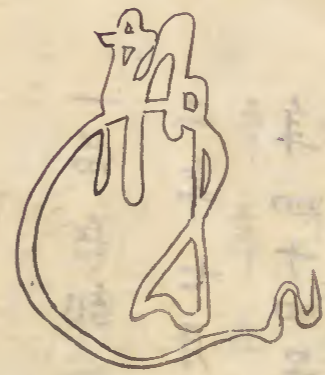


頼房

左馬権頭頼国子

從五位下加賀守

二合



惟康親王

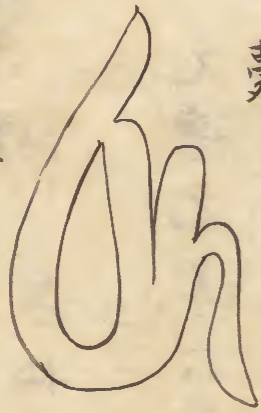
宗尊親王第一子

征夷大將軍二品

或曰 式部卿嘉

曆元年十月晦日

薨



別樣

花押藪

宮崎

藤原之存

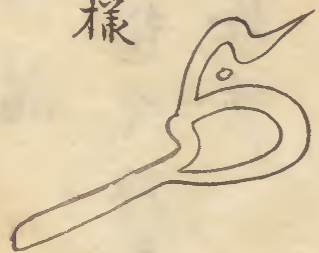
河内烏帽子
形人

鎌大夫天正四年

七月十五日於杉津

大坂戦死

別樣



花押藪

建長寺

梵僊

元人字
竺仙

元徳元年六月

来朝住建長寺

貞和四年七月

十六日寂

別様



花押菝

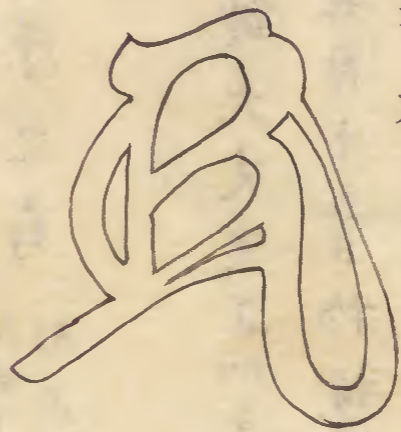
室町

源義満

宝篋院贈左大臣

義詮子

別様



細川

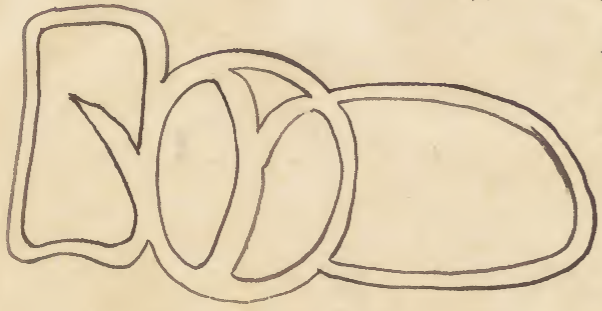
源顯氏

八郎頼貞子

從四位下兵部少輔

陸貞守

別様



曆應元年
十月九日

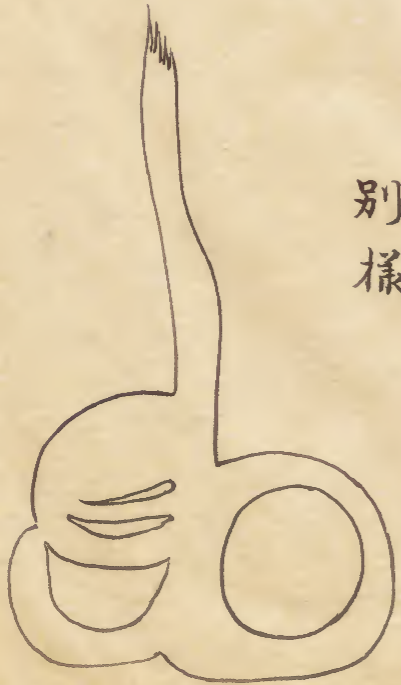
貞治六年二月四日卒

舟田

平長政

從五位下長門守

別様



安齋漫筆



貞子... 二日...

刻... 刻... 刻...



...

...

